

# 薬用植物園だより

2026年

2月

ウコンと色が全く違う！ムラサキウコン？

ガジュツ (ショウガ科)



*Curcuma zedoaria* Roscoe

部位	根茎
生薬名	莪朮 莪朮 (ガジュツ) <b>局方収載</b>
成分	クルゼレノン (セスキテルペン)
薬理	芳香性健胃作用、肝保護や抗腫瘍作用
薬能	駆瘀血薬
漢方	日本では漢方薬に配合されない



塊根 (紡錘根)

インドや東南アジア、東アジアの熱帯地域に分布する多年草。1月に紹介したウコンによく似ていますが、根茎の切り口が淡青紫でウコンの濃い黄色とは異なります。別名ムラサキウコンとも呼ばれます。花は5月ごろに咲きますが、本園では毎年、越冬のため掘り上げて温室で保管するため、根茎が大きくなりやすく、開花は稀です。薬用部位は根茎で、莪朮と呼び、日本では芳香性健胃薬として一般薬の胃腸薬に配合されています。また、日本薬局方では、その基原として、*C. phaeocaulis* および *C. kwangsiensis*の根茎も規定されており、国内で流通しているものは、主にこの2種であると報告されています。さらに、本種の塊根 (紡錘根) は、中国では生薬・鬱金 (郁金、ウコン) の基原の一つであり、混乱・混同の原因となっています。本園では、本種、キョウオウ (ハルウコン)、ウコン (アキウコン) を並べて展示していますので、暖かくなったら見学にお越しください。ミャンマー自生の *Curcuma* 属も植栽しているのでお見逃しなく！

クロガネモチ (モチノキ科)

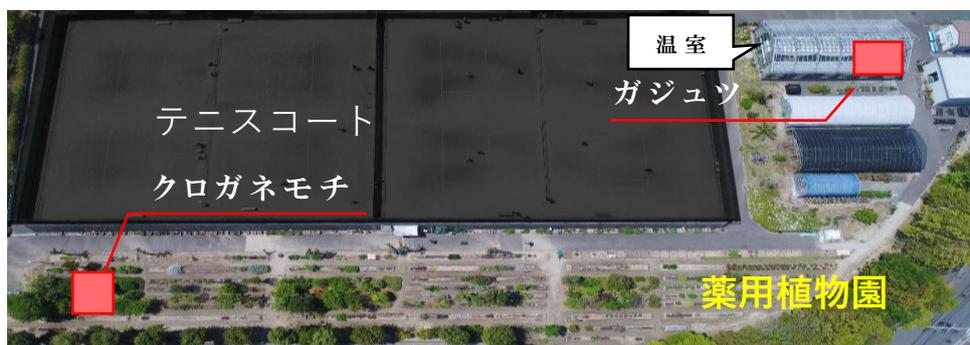
冬にはよく目立ちますが、無くなれば春？

*Ilex rotunda* Thunb.

部位	樹皮
生薬名	救必應 (キュウヒツオウ) <b>2025中国薬典収載</b>
成分	ペドゥンクロシド、ロトゥンジク酸 (トリテルペン)
薬理	肝保護作用、抗炎症作用、抗腫瘍作用
薬能	清熱解毒薬、利湿止痛
漢方	中国では発熱、喉の腫れや痛みなどの治療に使用



沖縄・奄美を含む西日本、台湾、韓国、中国、ベトナムに分布する常緑高木。雌雄異株なので、雄株では実を付けません。雌株は鮮やかな赤い実を多数つけ、また、「金持ち」と言葉の響きが重なり、縁起物の庭木として植栽されています。この赤い実は美味しくなく、鳥たちもあまり食べませんが、2月を過ぎてくると我が家の木は、ヒヨドリ達が食べ尽くし、糞に悩まされながら春を迎えます。かつては、樹皮からモチノキ (*Ilex integra*) と同様に「鳥もち」が作られました。薬用部位は樹皮で、日本では用いませんが中国では、発熱、喉の腫れや腹痛などの治療に用いられるようです。本園には温室に同属のマテチャ (*Ilex paraguariensis*) も展示しています。



ホームページでも  
ご覧いただけます